

お知らせ | 2021.7

ICCキッズ・プログラム2021

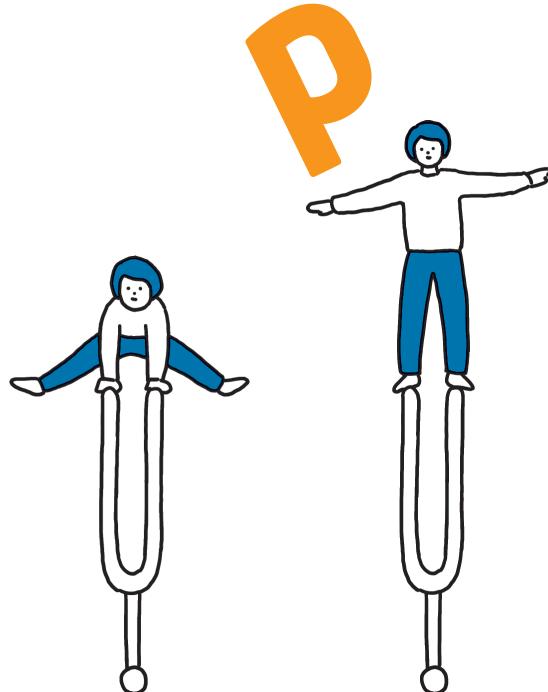
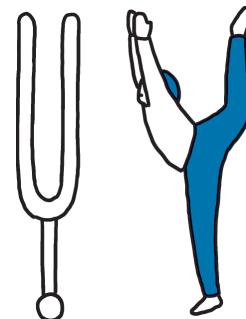
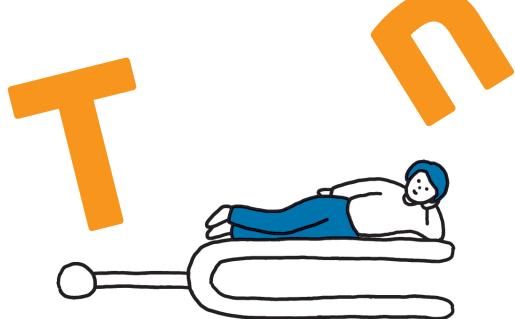
チューンナップ じぶんをととのえる

ICC Kids Program 2021

Tune up and Chime in

[オンライン展示]

2021年7月24日[土]—8月22日[日]

<https://hyper.ntticc.or.jp/>

[リアル展示]

2021年8月7日[土]—22日[日]

NTTインターミュニケーション・センター[ICC] ギャラリーA

開館時間: 午前11時—午後6時 入場無料(事前予約制・当日入場は事前予約者優先)

休館日: 8月10日[火]、16日[月]

*休館日以外においても、開館時間の変更および臨時休館の可能性がございます。

主催: NTTインターミュニケーション・センター[ICC](東日本電信電話株式会社)

後援: 渋谷区教育委員会、新宿区教育委員会、中野区教育委員会、文京区教育委員会

広報に関するお問い合わせ

NTTインターミュニケーション・センター[ICC]

企画担当: 島中実、指吸保子

広報担当: 赤坂恵美子

TEL: 03-5353-0800 FAX: 03-5353-0900

URL: <https://www.ntticc.or.jp/>

INTERCOMMUNICATION CENTER

特別参加: ハイゾーマティクス
Special Participation: Rhizomatiks企画監修: 阿部一直、野口靖
Co-curated and Supervised by ABE Kazunao and NOGUCHI Yasushi協力: 株式会社アブストラクト・ヒューマン
Cooperation: Abstract Engine Co., Ltd.共催: 東京工芸大学
Co-organized by Tokyo Polytechnic University大海悠太研究室／森山剛研究室
OGAI Yuta Lab./MORIYAMA Tsuyoshi Lab.東京工芸大学 色の国際科学芸術研究センター
International Research Center for Color Science and Art, Tokyo Polytechnic University

[特別展示] Special Program



令和3年度 文化庁 大学における文化芸術推進事業

展覧会概要

今年度のキッズ・プログラムは、「チューンナップ じぶんをととのえる」と題し、昨年来、それ以前とことなる環境の中で生活を続ける中で、自分のことをあらためて発見したり、気がつかなかつたささいなことに気づいたり、ひとりではなく、だれかと考えてみたり、新しい楽しみを見つけたり、といったいろいろな方法で、自分をととのえることをテーマとします。

たんに新しい生活に自分をあわせるのではなく、それぞれの個人が、自分のコンディションに合わせて、自分をどのようにとと

のえるのか、そのよいやり方を考えながら、「チューンナップ」してみませんか。

オンラインでのワークショップや映像視聴は、遠隔地からでも体験でき、データをダウンロードしたり、出力したりすることで、どこでもワークショップを行なうことができます。実際の会場での展示、オンラインでのワークショップ、自分(たち)でできるエクササイズ、などのほか、アーティストのオンライン・レクチャー やパフォーマンスなども行ないます。

出品作家(五十音順)と作品例

荒牧悠

「風が心地よい日、生垣の葉の中にやたらと揺れている葉が一枚ある。揺らしている要因が風だけではないような揺れ方をしていて、とても気になる。しばらく眺めていると、葉柄が細くなっていることに気がついた。周りの交通の振動もその細い葉柄を通じて葉をおおげさに揺らすのだろう。もうすぐ枝から落ちるのかもしれない、まさに葉が落ちる瞬間に立ち会おうとしているのだと気持ちが高まつた」
(荒牧悠)

ほんのわずかな違いで、意外な効果を生んでいる出来事は、案外身の回りに溢れています。荒牧悠は、太さが違うだけで思いがけない動きを引き起こす構造のヴァリエーションや、見え方の印象を作る図と地の関係などに関心を持って制作を行なっています。その効果を、あえて作り出すには、手元で確かめて、間違えたり、その差や違いを見つけたりしながら、試行錯誤を繰り返し、こうすればこうなるだろうというような、予測やすやすに持っている想像を押し拡げるきっかけが見つけられるような展示を行ないます。



荒牧悠《ボヨンペロン》2018年
Photo: Masaki Ogawa (参考図版)

小光

何かが起ることへの期待感や、どこに何が隠されているのかを見つける楽しみを感じる、ゲームのような感覚で作品世界の中に引き込まれてしまう3つのアニメーション作品です。

『here AND there』2017年

傘をさわると何になるかな？ 犬の鼻をつかむと何がおこる？ 画面じゅうをタッチして海と家と街ののんびりとした1日を行き来してみよう。アニメーションにインタラクションの連鎖を密かに仕込み、探ることの楽しさがより一層感じられるものになっています。

『Wander in Wonder』2018年

迷子になったうさぎが家に帰るまでを見守る、インタラクティブなアニメーション作品。すこしづつ夜に近づいてしまう中、不思議と花や草たちは帰る道を示してくれる。プレイした後、観客が道に生える小さな植物のことや子供の頃の記憶をふと思い出せるような作品として制作されました。

Coffee Dogs《you understand kawaii》2021年

散歩する犬たちに「かわいい」と声をかけてみよう。小光と薄羽涼彌(うすはりょうや)からなるゲーム制作チームCoffee Dogsによる作品。日常の微かな幸せをゲームとして体験することができます。



小光《Wander in Wonder》2018年

正直+臼井達也

養生テープをモーターで巻き取る。テープは芯からモーターの軸に巻き取られる際、糊の剥がれる音を発したり、空間的に引き伸ばされたりします。パフォーマーは黙々と作業を進める中で生じる微細な物の状態を観察し、調整を繰り返しながら、その音や空間をチューンナップしていきます。

今回は、ゲストとして臼井達也が参加。会場と遠隔地からオンラインで共演を試みます。

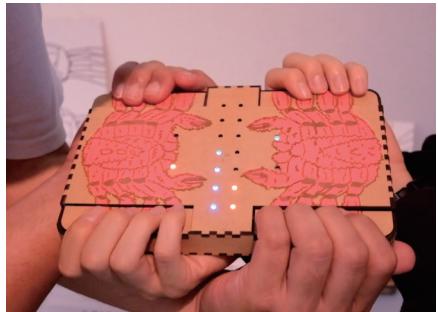


正直 2019年のパフォーマンス 撮影:鹿十閑真奈美

小鷹研究室（名古屋市立大学）

名古屋市立大学大学院芸術工学研究科の小鷹研究室は、「からだの錯覚」を中心テーマとして、新しいメディア空間における新しい「からだ」のかたちを模索しています。「からだの錯覚」を実際に体験してみるとことや、新しい「からだの錯覚」を考案することを重視し、認知心理学における重要な概念である「身体所有感（ある身体が自分の身体である、という感覚）」に対する理解を軸に、種々の心理実験から所有感を変調させるための必要条件を吟味しています。また、VR技術を積極的に導入し「具体的に体験可能なインタラクション装置」のなかで設計された「からだ」のリアリティを様々な尺度で検証しています。

今回の企画では、小鷹研究室が発表した、特別な材料や道具を用いずに手軽に「からだの錯覚」を即席に体験することができるオンラインでのワークショップや、リアル展示では、体をモノのように錯覚する体験装置などを展示します。



佐藤優太郎、石原由貴、小鷹研理、名古屋市立大学大学院芸術工学研究科小鷹研究室《蟹の錯覚》2018年-

渡邊淳司（NTTコミュニケーション科学基礎研究所）

現在のコロナ禍は、リモート中心へと生活様式が変化するなかで、誰もが、一人ひとりの多様な幸せ（ウェルビーイング）を見つめなおす機会となっており、特に子どものウェルビーイングを高めることの重要性が指摘されています。NTTの研究所では、主に人間情報科学の観点から、ウェルビーイングにつながる心理的な要因の解明やその機序についての研究に取り組んでいます。

今回の企画では、子どものウェルビーイングの学びに向けた取り組みとして、ウェルビーイングを感じる様々な状況が書かれたカードを使います。これらの状況は人との関係性によって4つに分類され（WE・SOCIETY・UNIVERSE）、カードの裏面に分類が記されています。このカードを使って、身の回りのウェルビーイングを見つけ、日記のように記録していくワークショップなどを行なっています。

展示体験企画、カードロゴデザイン：駒崎掲（NTTコミュニケーション科学基礎研究所）

学術アドバイス：村田藍子（NTTコミュニケーション科学基礎研究所）



「わたしたちのウェルビーイングカード」2021年（参考図版）

[特別展示]

東京工芸大学 色の国際科学芸術研究センター

大海悠太研究室

森山剛研究室

ライゾマティクス（特別参加）

企画監修：阿部一直、野口靖

協力：株式会社アブストラクトエンジン

共催：東京工芸大学

※特別展示は、東京工芸大学との共催事業となります。

令和3年度 文化庁 大学における文化芸術推進事業

東京工芸大学「色の国際科学芸術研究センター」は、2016年に設立され、東京工芸大学のルーツである写真、印刷、光学といった学問分野に根差し、工学部と芸術学部とに共通する研究テーマとして「色」を取り上げた、国内の大学で唯一の「色」の国際的な研究拠点です。「色」の研究成果を、写真、映像、拡張現実、プロジェクション・マッピング、CGなどの最新のメディア・アートの手法によって情報発信を行なっています。

・大海悠太研究室《カオティックビデオフィードバック》2019年

カメラをスクリーンに向けて撮影し、その撮影した映像をまたスクリーンに出してループさせると、合わせ鏡のような映像になることが知られています。この作品では、ループをする毎に高速計算PCによって全ての画素にカオス写像を用いて色を変換しており、映し出されている自分が徐々に変わっていく様子を見ることができます。また、色の変換のパラメータをチューニングすることで、映像の様々な変化を探索することができます。

・ライゾマティクス 新作インスタレーション



東京工芸大学 大海悠太研究室
《カオティックビデオフィードバック》2019年



関連イベント

子どもたちの「もっとよく知りたい」に応えるための各種イベントを実施予定です。

- レクチャー 「小光とあそば night! ICC出張版」

開催日時：2021年8月15日[日] 午後2時より

会場：ICC ギャラリーA

配信あり

- パフォーマンス 正直+臼井達也

開催日時：2021年8月3日[火] 午後6時より

会場：オンライン

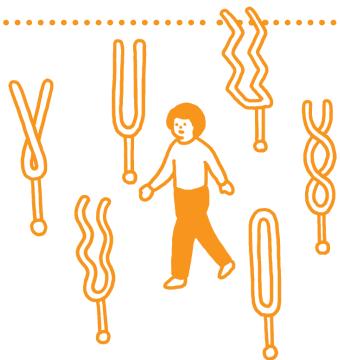
配信あり

開催日時：2021年8月21日[土] 午後2時より

会場：ICC ギャラリーA

配信あり

最新情報はICCウェブサイト(<https://www.ntticc.or.jp/>)などでお知らせします。



新型コロナウイルス対策

NTTインターミュニケーション・センター[ICC]では、

新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、お客様ならびにスタッフの健康と安全を考慮し、
ご来館される全てのお客様に以下の対応のご協力をお願い申し上げます。

下記に該当する方は、ご入館をお断りさせていただきます。

- 37.5度以上の発熱症状がある方。
(入館時にサーモカメラ及び、非接触型体温計での体温計測を実施します。)
- 過去2週間以内に、感染拡大地域や国への渡航をされた方。
- 発熱、咳、鼻水、倦怠感の症状が続くなど、体調不良の方。
- マスクを着用されていない方。

Illustration: ARAMAKI Haruka

Design: YANAGAWA Tomoyuki

NTTインターミュニケーション・センター[ICC]

〒163-1404 東京都新宿区西新宿3-20-2

東京オペラシティタワー4階

アクセス：京王新線初台駅東口から徒歩2分

お問合せ：0120-144199(フリーダイヤル)



NTTインターミュニケーション・センター[ICC]は、日本の電話事業100周年(1990年)の記念事業として1997年4月19日、東京／西新宿・東京オペラシティタワーにオープンしたNTT東日本の運営する文化施設です。ICCは「コミュニケーション」というテーマを軸に科学技術と芸術文化の対話を促進し、豊かな未来社会を構想していきます。